

フィッチによる米国債格下げについて

「AAA」から「AA+」へ引き下げ、見通しは「安定的」

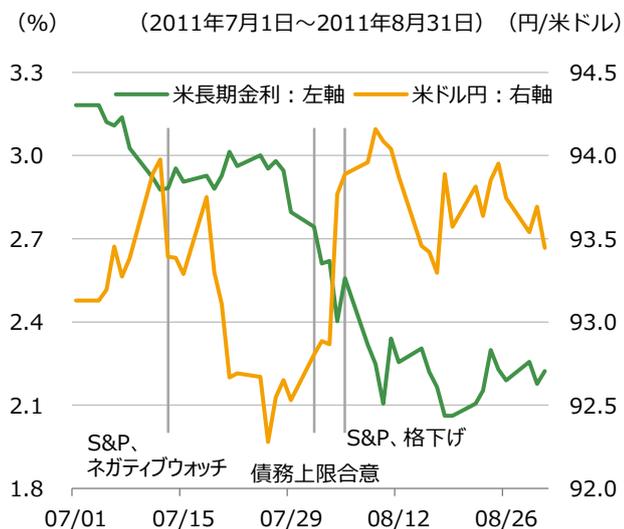
2023年8月4日

2011年格下げ時と比較すれば、金融市場への直接的な影響は限定的

格付け会社フィッチ・レーティングスは8月1日（現地）、米国債格付けを「AAA」から「AA+」へ引き下げました。格付け見通しは「安定的」としています。同社は格下げの理由として、（1）今後3年間の財政悪化見通し、（2）高水準かつ増大する政府債務負担、（3）同じ格付け諸国と比較したガバナンスの低下、を挙げました。イエレン財務長官は格下げに対して「恣意的な決定」で「正当な根拠がない」と声明で反論しました。なお、その他の格付け会社では、S&Pグローバル・レーティングが2011年の債務上限問題時に「AA+」へ引き下げた一方、ムーディーズは「Aaa」で最上位格付けを据え置いています。

格下げ発表直後に米ドル安と米金利低下が一時進みましたが、「米国債ショック」とも呼ばれた2011年の格下げと比較すると、金融市場に及ぼす影響は限定的と思われる。その理由として、第1に、前回は1941年以来となる最上位格付けの喪失であり、象徴的なイベントとなりました（ただし、当時は欧州債務危機も深刻でした）。第2に、流動性や市場規模の観点から、格付けの高低が金利の高低に直結するとは限りません。市場規模が大きく、流動性の高い米国債のベンチマーク債との位置づけは不変と思われます。第3に、現在の米国経済は大幅な金融引き締めにもかかわらず景気後退を回避するなど、堅調さを維持しています。米中摩擦など政治的な意味での米ドル・米国債離れの動きは一部にあるものの、今回の格下げが米国債売却を強いることや米ドルの基軸通貨としての価値を棄損するリスクは限定的と考えられます。

2011年S&P格下げ時の債券・為替市場



(出所) ブルームバーグ

2023年フィッチ格下げ時の債券・為替市場



(注) 8月4日5時までの時間足

(出所) ブルームバーグ

当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は投資判断の参考となる情報提供を目的として大和アセットマネジメント株式会社が作成したものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資信託のお申込みにあたっては、販売会社よりお渡しする「投資信託説明書(交付目論見書)」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。また、記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。
- 当資料の中で個別企業名が記載されている場合、それらはいくまでも参考のために掲載したものであり、各企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに今後組み入れることを、示唆・保証するものではありません。